

## はしば 橋場Ⅱ遺跡

所在地	二戸市福岡字橋場
調査原因	住宅地造成に係る緊急発掘調査
調査期間	平成25年4月24日～9月20日
調査面積	7,293 m <sup>2</sup>
主な時代	縄文（晩期）、中世、近世
主な遺物	陶磁器、金属製品、石製品（硯）、土製品（埴埴）、縄文土器

### ①遺跡の説明

橋場Ⅱ遺跡は平成24年度に新規発見された遺跡です。今回の工事に伴う試掘調査により、近世以降のものとみられる井戸跡が確認され、周知遺跡として登録されました。

遺跡は九戸城跡が立地する馬淵川右岸の中位段丘の一段下の低位段丘に立地しています。縄文時代後期の八幡平遺跡が斜面上に位置しており、北側の道路（市道村松線）の向かいには九戸城跡松ノ丸跡、三ノ丸跡（三ノ丸遺跡）が隣接しています。市道村松線と県道二戸一戸線との交差点は奥州道中と浄法寺（鹿角）街道との分岐点になっており、ここには追分石が確認されています。



B区 石積全景

### ②調査の内容

調査は大きく5つの調査区（A区～E区）に分割して実施しました。平坦部のC、D、E区では近現代の堆積層が分布しており、当該期の陶磁器等が大量に出土しました。今回は近世以前の遺構に焦点を絞り、この造成層を除去した段階で遺構の確認作業を実施しました。また、中央のB区では雑物撤去時に不自然な地形が確認されており、表土掘削の結果、白色土の造成がなされていることがわかりま



E区 5号縦穴遺構

した。また、造成土の下からは、大小の河原石が斜面に張り付くように分布しており、石積みによる法面補強がされていることがわかりました。またこの石積から派生するような

形で石列が展開されており、敷地の区画に用いられたものと考えられます。白色造成土上には柱穴が確認されており、掘立柱建物が存在していました。

一方、市道付近からも掘立柱建物跡、竪穴遺構が確認されました。これらの建物は浄法寺街道の向きを基準に建てられており、街道に面した建物群であると推測されます。また、街道と建物の間には、1条の溝跡が確認されており、これは道路側溝か塀の痕跡であると考えられます。竪穴遺構には入口部分の張出しを有し、壁際に柱穴を配置するもののほかに壁際に河原石を配したものがありました。それぞれの性格は不明ですが、後者のものは鉄製品の出土が多く、工房の類であったかもしれません。

井戸跡は調査区の全域から確認されました。2m以上の掘削が必要になるものもあり、底部までの調査ができなかったため、遺物はほとんど回収できず、詳細な時期は不明ですが、唯一B区の7号井戸跡(SE7)からは近世陶磁器が出土しています。また同遺構からは硯が出土しており、その底面に刻印が見られます。

また、E区からは縄文時代の遺物も確認されました。溝状遺構から出土した破片を復元したところ、1個体の無文壺と2個体分の粗製深鉢であることがわかりました。

### ③調査の結果

今回の調査で、福岡城期に伴う可能性のある建物群が確認されました。これらの建物は街道沿いに立地しており、山側には石積みを有した造成箇所を控えています。今回の調査では石積上には遺構は確認できませんでしたが、さらに山側に施設があった可能性は高いと考えています。

福岡城の関連遺跡としては、武家屋敷跡および道路跡の在府小路遺跡がすでに知られていますが、今回橋場Ⅱ遺跡の調査により福岡城下の様相を知る追加資料を得ることができました。



D区 1号掘立柱建物跡